

1. 事業期間

2024 年 6 月 1 日～2025 年 5 月 31 日

2. 事業方針

当法人は、**地域を支えるために必要な資源の循環を作り、社会を構成するあらゆる人が地域の未来を担い合い支える仕組みを構築することによって、持続可能で豊かな地域社会の創造と発展に資することを目的としています。**

そのため、熊本県内で活動している市民活動に関わる課題や問題を集約し、解決に向けたセミナーや情報・意見交換ができる場を提供するとともに、活動団体のネットワークを構築し、市民活動をサポートします。社会を構成するすべての主体が公益を支える仕組みの構築、活動団体に仲介・提供するために必要な資源の確保を行います。

また、新たに創設した「くまもと次世代応援基金」では①**次世代育成事業「Appleseed 奨学金」**（熊本モンタナ高校生留学奨学金（返済義務のない給付型で支給）県内の高校生が広く海外に視野を向け、将来世界的視野を持ちグローバルに活躍をする人材を育成することで、社会の発展に寄与すること②熊本の未来を担う子どもたちを対象として「未来」に希望を持ってもらうことを目的として事業を行います。

2021年より、モンゴルとの交流やモンゴルと女性の女性自立支援を行うことで、国を超え支え合うつながりと持続可能な経済支援を目的とした「熊本×モンゴルプロジェクト」を多様な団体と連携して開始しました。

《設立から7ヵ年、以下の重点取り組みを行ってきました》

○2017年度重点取り組み【**仕組みの充実と拡充**】

- ① 基金創設の理解と支援体制の構築・必要な資源の拡充
- ② 熊本地震支援活動団体のサポート体制・連携
- ③ 助成事業の充実

○2018年度重点取り組み【**ネットワーク連携強化**】

- ① 連携強化による新たな資源の確保
- ② 地域の課題解決に向けた仕組み作り・交流サロンの充実
- ③ ネットワーク連携による助成事業の充実

○2019年度事業の取り組み【**基金創設と必要な資源の確保**】

- ① 基金創設の理解と支援体制の構築・必要な資源の確保
(1592チャレンジ・Appleseed 奨学金)
- ② 社会課題のニーズ・課題調査、サポート体制づくり（女性・子ども・若者）
- ③ 組織運営・事務局体制の強化・充実

○2020 年度事業の取り組み【組織基盤強化・連携による社会課題解決支援】

- ①地域における社会課題を把握し、必要な資源確保、ニーズに対応し現場に寄り添った助成・団体基盤強化事業の充実
- ②関係団体・機関等と連携して行うことで地域の課題解決に向けて連携サポート体制を構築

○2021 年度

- ② 「くまもと次世代応援基金」を創設し、Appleseed 奨学金②次世代育成事業の充実
- ②支援団体・連携機関と連携による災害・クライシス・社会課題解決に向けた支援体制・プラットフォームづくり
- ③次世代応援基金の資源確保・次世代育成事業の充実
- ④地域課題解決に向けた組織基盤強化

休眠活用事業：2020 年に続き採択

「支えあう多様なコミュニティづくり支援事業」助成総額 8,000 万円の事業（県内 10 団体への助成・伴走サポート）を行っています（2022 年 3 月まで）

○2022 年度

- ① Appleseed 奨学金一次世代育成事業の充実
- ②支援団体・連携機関と連携による災害・クライシス・社会課題解決に向けた支援体制・地域リーダーの育成
- ③地域課題解決に向けた組織基盤強化（セミナー・事務局検定の実施）
- ④休眠活用事業：「支えあう多様なコミュニティづくり支援事業」助成総額 8,000 万円の事業（県内 10 体への助成・伴走サポート）2022 年 3 月まで
- ⑤「熊本・モンゴルプロジェクト」
国を超えて支え合うコミュニティづくり・女性自立支援の充実

○2023 年度

熊本地震復興支援から活動を始めた財団は、2026 年 3 月 30 日創立 9 年目を迎えました。

これまでの資金調達額は、多くの皆様のご支援を受けて、2022 年 5 月 31 日現在の寄付（助成事業含）
総額 2 億 2,392 万 5638 円となりました。

●2024 年度

- ①「地域課題解決」についての学びを深め・多様な主体と連携を図る
- ②次世代育成事業：子ども達を取り巻く状況について学びを深める（セミナー開催）
- ③「熊本・モンゴルプロジェクト」内容充実
交流ツアー・幼稚園交流・「熊本・モンゴル展」開催

3. 事業計画

(公益活動推進事業)

- (1) 公益活動を行う団体に仲介・提供するために、公益活動に必要な資金等の資源を募り、確保する事業

◆事業名：おもやいアワード2024

【事業概要】熊本地震・コロナ感染・熊本豪雨災害によって、活発に活動始めた市民活動や災害支援活動から高まった寄付に関する県民の意識をさらに高め、今後迎える課題社会の課題解決に向けて、県民一人ひとりが自分たちで解決する仕組み作りやお金の使い方で自分たちの未来を作っていけることに気づいてもらうこと、サポートをする団体として設立した「くまもと未来創造基金」について広く知ってもらうことで、応援する賛同者を募り、共に未来を作る仲間を増やすことを目的として開催。

【内容】熊本の未来をみんなで支えよう

1. 「くまもと次世代応援基金」“子どもたちと作る熊本の未来”

Appleseed奨学金留学生報告

【実施日時】2024年7月に実施

【実施場所】熊本城彩苑

【対象者】NPO・行政関係者・企業・地域金融機関・関心ある方

【参加者】20名

【参加費】無料

(3) 公益活動を行う団体及び資源提供者に対するコンサルティング事業

- ・活動団体個別相談
- ・熊本市市民活動紫煙センター・あいぽーと委託による「資金作り・法人運営無料相談」



◆基盤強化セミナー＊連携事業

- ①SNS を活用して支援者を増やす（熊本市）

主催：熊本市市民活動センターあいぽーと

協力：一般財団法人くまもと未来創造基金

会場：熊本市市民活動支援センターあいぽーと

開催時期：2026 年 4 月（予定）

④助成金セミナー ① （自主事業）＊助成団体の連携

【目的】

- ・団体が抱える課題の一つ「資金」について、助成金活用を希望する団体は多いが、自団体の計画に合わせて有効に活用している団体は少ない。
- ・助成制度について助成担当者による説明や助成金のしくみ・助成団体が助成金を出す目的などを聞くことにより、助成金への理解を深め、自団体に合った助成金申請へとつなげる。
- ・助成担当者の説明に加えて、熊本で実際に活動している団体の報告を聞くことで、より多くの団体が上手に助成金を活用し活動を発展させていく。
- ・開催に当たっては、事前に共催で開催する「助成金活用・企画書作成勉強会」と連携させる。

【日時】2025 年 9 月 10 日（木）

【会場】熊本市市民活動支援サポートセンター あいぽーと

【実施体制】主催：一般財団法人くまもと未来創造基金（企画・当日運営実施主体）

共催：熊本市市民活動支援センターあいぽーと（会場・広報・集客）

【協力助成団体・機関】

・くまもとわくわく基金（熊本市）・九州 ろうきん（九州）・九電みらい財団（九州）



＊台風の接近のため中止

●コミュニティマネジメントセミナー～楽しくてみんながイキイキするコミュニティの運営方法～

・講師：NPO 法人 CR ファクトリー 呉哲煥さん

コミュニティの運営について学びました。

・参加者は、

子どもの居場所、子育てママのコミュニティ、森の幼稚園

これからコミュニティを作りたい人

ボランティアスタッフとの付き合い方・団体メンバーの温度差・担い手育成・事務局育成 など
は色々運営の課題を抱えている方々でした。

様々な社会課題を抱える日本において、多様なコミュニティの場づくりは民間の力

・内容：

非営利組織の運営の難しさ・コミュニティマネジメントの基本原則・新たな仲間の巻き込み方

など、ワークも交えて 参加者同士 実践していること これからやりたいことなど
具体的に考えて行きました。基本的な運営方法を押さえた後 仲間になってもらう方法について
グループワークは色々な気づきがあったようです。



●熊本市市民活動センターあいぼーと依頼による講座



(4) 次世代育成事業

①「Appleseed 奨学金」熊本モンタナ高校生留学奨学金

*連携事業

目的：高校生留学プログラム参加費用相当額の奨学金を、返済義務のない給付型で支給することで、県内の高校生が広く海外に視野を向け、将来グローバルに活躍をする人材を育成することで、社会の発展に寄与すること

《2025 年度募集スケジュール》

6 月初旬 県内の高校 5 0 校に対し募集ポスター送付。

8 月 29 日（日） 第一回説明会

9 月 15 日（水）オンライン説明会

12 月中旬 筆記試験

面接

【開催協力】モンタナ州政府駐日本代表事務所

公益社団法人日本国際生活体験協会（EIL）

②留学生壮行会・寄付金感謝状贈呈式

- ・ 7月30日（火）13：00～15:00
- ・ 会場 テレサ
- ・ 次世代育成事業アップルシード奨学金(高校生留学給付型奨学金)
- ・ 寄付金謝状贈呈式
一般社団法人シアーズ SC 様
(新村 博道 様は日本帰国の際に授与済み)
- ・ 2023 年留学生報告 石田茜莉さん(第一高校)
- ・ 2024 年留学生壮行会
 - 花田 彩心さん(第一高校)
 - 李 佳澄さ(熊本高校)
- ・ 熊本県教育長 白石様挨拶
- ・ 熊本県観光戦略部長 倉光様

2024 年は 400 万円のご寄付をいただき、2 人留学することができます

2019 年からこれまで 8 人の留学生を送り出すことができました。

皆様からのご寄付は 15,624,822 円

1,500 万円を超えました。

(シアーズ SC 様は 4 年間継続して寄付)



③子育て講演会「困難さを気づかれない子どもたち」

日時：2025 年 3 月 30 日(日)14 時～15 時 30 分

場所：国際交流会館 5F 大広間

講師：古荘純一氏 青山学院大学教授

対象は子育て中の方・子ども支援に関わる人

参加者:34 人



・日本の子ども達は受動的」ということに対して、うなづくばかり「能動的体験・ほめる」を心がけていけたらとおもいました。（作業療法士）

・児童生徒・子ども・こども・小児の違いのエピソードが印象的でした。行政・社会の都合と困りごとの本質・原因によってサポートが変わるということ（アートセラピー）

・古荘先生のお話の中には、既知のこと以上に、子どもを中心にした社会の存在の在り方を示唆ス兩な内容が含まれており、我が子の子育てのみならず、保護者として、同社会の教育に関わるかを考えるきっかけとなりました。（支援学校教育）

・子どもに自分の意見を押し付けてしまっているなと反省しました。その影響がすでにでは占めているかとも思うこともあるので、能動的体験や主体性を大事にせねばならないと思いました。

（保護者）

・小児臨床医の先生の立場から、困難さを気づかれない子どもの特性などをわかりやすく教えていただき学べる日となりました。（障がい者支援施設支援員）

・日々の関わりの中で、大人が気を付けていきたいことだと感じた。発達障害に関わらず、必要な関りを再認識できた。同じ行動をとれないとどうしても困ったこととしてとらえられるが、その環境や周囲の関わり、大人の見方を変えていきたいと感じた。

・子ども。本人は困難さをその程度自覚しているのでしょうか？親やその周りの人たちが困っているほど子どもは困っていないのかなと感じますが一だから気づかれないのかな？（助産師）

・見守るだけでは、進めたことにはならない（母親）

・専門的な話を聞くのは初めてでしたが、興味深く勉強になりました。

・親の死別が子どものトラウマになっているという話を伺って、昨年夫を亡くしたので、子どもにどのように影響していて、今後そのように接していったらいいのか考えるきっかけになりました。子どもの様子は気にかけてみてはいるのですが、特に気になることはなかったなので、これから意識していこうと思いました。

・とても貴重な話をありがとうございました。いろいろな物事は、心理的・精神的なものが要因して関わってくるのだなあと改めて思いました。また、私の見ている子ども達は判断がつかない年齢でしょうし、これから先、その子ども達がきちんと物事を見極め良に促していこうと感じました。

・子育て中なので、とても勉強になりました。

・今回の参加者は、子ども専門家が多かったのでは（予想）を持ったが、もしもこのテーマで子育て中のお母さん向けにセミナーをするとしたら、内容が難しいように感じた。現場にいる先生方にはすごくわかりやすかったと思う。学術的な話の中で、目の前の子どもを思い浮かべながら、考えることができた。不登校や引きこもりが精神疾患につながるという目線は今ママで思ってもいなかったなので、その視点も持っておくことも必要なのかなーと思った。（子育て塾講師/子育て相談）

・子どもとのかかわり方

・発達障害について、詳しい話をありがとうございました。身内にゲームばかりする子がいます。ゲーム行動症という言葉を知りました。その子にどのように対応したらよいのでしょうか？

多動でもありますがー（保育士・栄養士）

・古荘先生のお話を聞いて、社会の仕組み自体の見直しが急務だと感じました。島も、まずは自分自身の子育て。教育現場でできることを一つ一つ取り組みたいと思います。（教諭）

- ・対応の方法の引き出しができた。(子ども居場所支援団体)
- ・受動体験・能動体験という話について、日常生活の中で子どもと周りを考える中で、意識したことがなかったのも、もっと意識していきたいと考えた。
- ・ほめることの大事さを非常に感じた。子どもともう少しきちんと向き合うと思った。
- ・子どもは特にトラウマを起こしやすいと同時に困難さが先送りにすると大変になるので、ケアを大切にしなければいけないと思いました。(看護師)
- ・数字など聞き取れないというところがあったため、手元資料が欲しかった。(→終了後配布済み)
- ・困難さの有無や子どもと移転に関わらず学びになりました。また、「困り感のある人」という表現、初めてでしたが、生きづらさ、困難さに加えて使いやすい気がしました。(看護師)
- ・日頃フリースクールで接する子どもさんの理解につながればと思って参加しました。とても貴重な話を聴けて良かったです。精神疾患との関連についてもいい話が聞けて良かったです。(看護師・保健婦)
- ・子どもの今の状態・こどもからの視点をしっかり見ていきたい。考えていきたいと思いました。ルーティンワークも当然のことではない。感謝していきたいと思いました。

- ・親子共に自己肯定感を持つ必要性
- ・受動態兼・能動体験という話について、日常の中で、子どもとのかかわりを考える中で、意識をしたことはなかったのも、もっと意識をしていきたいと考えた。

2. 全体的な気づきや感想などがあれば

- ・リアルな人間関係を構築していくのが大事だと思う。
- ・最近自分の子どもの保育園での言動について、園の先生と話すことが多くありました。家庭では穏やかでも、園では暴言を言ったり、落ち着きがなく動いてしまうということがあったようで、悩んでいるところもありました。今回お聞きした内容をヒントに、今後の関わりを考えています。
- ・シリーズで勉強させていただきたいと思いました。
- ・先生の本を読まねばと思いました。
普通学級にやるか、支援学校にやるか迷っています。決め方や基準などを知りたい。
- ・「能動体験をほめる」地域で何ができるか？を常に考えて行動していきたいと思いました。3人以上の相談対象の一人になれたらと思います。
- ・大人の発達障害も気になります。
- ・子どもの主体性 自己肯定感を育むための話は、教育に携わる者として、かんがえさせられました。
- ・タイトルの困難さを気づかれない子ども達が、どのような様子なのか知るきっかけ・ヒントを聴くことができました。ありがとうございました。
- ・保育や教育などの子どもに関わる仕事ではないのですが、親として育児を学びながら育てていて、気になった講演会だったので参加しました。少し難しい話もありましたが、興味深く学びも多かったです。
- ・とても見やすく・分かりやすいスライドでしたので、勉強になりました。全体的に、トラウマの割合が圧倒的に多かったのが驚きました。子どもたちがどういう状況にあるのかを、立場的に判断していけたらよいと思いました。
- ・悩んでいる方に聞いてもらいたい内容でした。ありがとうございました。
- ・「アサーション」というスキルの話がとても分かりやすかった。「自尊感情を育む」のところで「受動体験・能動体験」は改めて意識していこうと思う(私は、アイメッセージとして、事実→影響→感情→尊重

という順番でお母さんたちに伝えています。話全般を聴いていて思うのは、子どもを一人の人として尊重する（学校に切れ暮れてありがとう など）という大人の姿勢が問われていると思います。また子どもへの背景の環境を一番に考え、私たちは自分の頭の中や行動総動員で子どもに向き合う存在であり、今子どもの前にいることに感謝して、この仕事をさせていただけることに全力を尽くそうと思いました。

（子育て講師・子育てセミナー・子育て相談）

- ・不登校について学びたい
- ・4月から教育現場に復帰します。今回の公演で多くの学びがありました。これまで支援を要する子に目が行きがちでしたが、「境界知能」により、困難さに気づかれない子ども達にも目を向けていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・資料を共有いただき、ありがとうございます。不登校や発達障害でリアルに悩んでいる母親たちはこういう講演会に参加できずにいて、資料を2人に共有しました。ありがとうございます。本当に支援が必要な人に届くようにできたらいいと考えています。
- ・主催の先生方の話も含めて、大変勉強になりました。継続して学ばせていただきたいです。
- ・自分の自己肯定感をしっかり保つ元の大切さも感じました。

3. 今後企画してほしい内容があれば

- ・普通学級にやるか、支援学校にやるか、決め方や判断基準など
- ・大人の発達障害について
- ・先生の本をベースに勉強会をしていきたい
- ・古荘先生の次回講演会を楽しみにしています。
- ・シリーズでより深い内容を聞きたいです
- ・ゲーム依存・ネット依存について
- ・困難さを気づかれない子ども達への実際に関わり方など専門的学び
- ・思春期の子どもの接し方

（5）公益活動に係る調査研究、情報収集及び情報発信に関する事業

【事業】情報発信及び広報・普及啓発

【内容】市民活動の一番にニーズである助成金情報や企業・行政からの情報等様々な情報を活動市民団体に提供するとともに、支援したい市民・県民・企業等に活動団体の情報や社会的課題について発信していきます。

【対象者】市民活動団体・個人・企業・行政等

【配信】HP

メルマガ

FB等SNS

（6）その他の事業

- ・「熊本×モンゴルプロジェクト」
- ・目的：モンゴルとの交流や女性自立支援を通して、国を超えて支え合うコミュニティを作る
- ・内容：
 - ①交流：モンゴルツアー 6月—ASIA FOLK2025 参加・パワースポットを訪ねるツアー

- 9 月－南ゴビの自然体験とオイスカモンゴルの農場センター訪問
幼稚園交流（2 回目）インターナショナルキンダーガーデンとモンゴルの幼稚園
② 女性自立支援：事業充実と連携の広がりを図る

4. 理事会の開催

年 4 回開催（6 月、10 月、2 月、5 月）

6 月－今年度事業計画・予算状況

10 月－進捗状況

2 月－進捗状況・次年度事業計画

5 月－今年度事業報告・決算状況 次年度計画・予算

5. 評議員会開催

- ・ 2025 年年 5 月開催予定